

さあ、力を合わせて。

「コロナ急拡大。苦悩する現場に寄り添う」



コロナ感染拡大における教育・保育の状況をヒアリング in 北上市役所 2月2日

木戸口英司参議院議員と党所属の関根敏伸、高橋元、佐藤ケイ子の各県議は、教育・保育施設で感染拡大が続く北上市から状況をヒアリングした。北上市内では、1月中旬から大規模保育施設でのクラスターが発生し、休園や臨時休校、学級閉鎖の措置が取られるなど感染が急拡大している。北上市の高橋市長から、「PCR検査がひっ迫して検査待ちや結果判定までに5日間かかった事例があり、自宅待機の児童生徒・保護者が多数になった。陽性者を確認した場合は、無条件で7日間の臨時休校を取らざるを得ず保護者の就業に支障が出ている」との現状について説明がなされた。その上で、「自宅での体調変化の相談など、保健所からの指示が受けられず家庭内感染が拡大している。休業を余儀なくされた非正規社員からは自宅待機中の賃金問題の不安の声がある。また、休業支援金の制度があっても労働者・事業主とも活用方法が不明で、詳しい内容についてPRが必要だ。」と支援制度の周知徹底などについて要望が寄せられた。これに対し木戸口議員は、「政治の目詰まりをただし、現場の声にしっかり応えていく」と、現場の声をコロナ対応に活かしていく考えを示した。

～木戸口参議院議員、熱く訴える～



雪の中、街頭演説する木戸口参議院議員

木戸口英司参議院議員は1月31日、盛岡市内の11か所で街頭演説を行い、「**岩手を守り、日本を変える。**」必要性を訴えた。木戸口参議院議員は「政府のコロナ対策は二転三転して、混乱を招いている」と政府の対応を厳しく批判。「医療現場や地方自治体など現場の実態を踏まえて、医療体制の強化や幅広い事業者支援を実施すべきだ。特に国産ワクチンや治療薬の開発、サプライチェーンの強化に積

極的な財政出動が必要だ。」と、政府のコロナ対策の見直しを訴えた。また、「米価下落や水田交付金の見直しなど、政府の進める農政では農業農村が崩壊し、人口減少など地方の衰退に拍車をかける。」などとして、「自民党政治からの転換なくして地方の再生はない。」との認識を示した。

この日の街頭中は氷点下3度まで冷え込んだが、お昼休みの県庁前の街頭には達増知事らが姿を見せ、木戸口参議院議員の訴えに耳を傾けていた。

※ 県連活動通信を始めました。Webのみならず、FAXなどでもご覧いただけます。FAXでの購読をご希望の方はお近くの立憲民主党議員団へお知らせください。また、ご意見もお待ちしています。